

第7章

子どもの学年段階別による 母親の子育て意識とその実態

小学校低学年（小学1年生～小学2年生）

小学校中学年（小学3年生～小学4年生）

小学校高学年（小学5年生～小学6年生）

中学1年生

中学2年生

中学3年生

図表

筑波大学大学院博士課程 村上 達也



<小学校低学年（小学1年生～小学2年生）>

子どもと接する時間ももっとも長く、子どもとのコミュニケーションもよくとれている。母子の間では母親が大きな主導権を握っている時期でもある。母親の悩み・関心は、学習面よりは生活面にあり、とくにしつけの問題がこの時期の特徴としてあげられる。

子育てにかかる時間と楽しさ

小学校低学年の子どもをもつ母親の「1日のうち、子どもと一緒にいる時間」は全体でもっとも長く407.9分となっている。

母親の感じる「子育ての楽しさ」で、「とても楽しい」という回答は全学年でもっとも低い(17.8%)。しかし「とても楽しい(17.8%)」+「まあ楽しい(70.4%)」という比率は、他の学年とほぼ同様である。小学校低学年のうち、まだ子どもが小さいために生活面での悩みが多く、子育てにかかる時間ももっとも長いことから「とても楽しい」というところまではいかないのではないだろうか。

子育ての悩みや気がかり

比率が高いものから順に、「犯罪や事故に巻き込まれること」(64.2%)、「整理整頓・片づけ」(54.2%)、「ほめ方・しかり方」(49.4%)、「友だちとのかかわり方」(47.4%)となっている。

また、他の時期と比較して、「食事のしつけ」(44.0%)、「しつけの仕方」(34.1%)といった悩みの回答比率が高い。この時期の特徴としては、しつけの問題が母親を悩ませており、一方で学習についてはそれほど悩みとして浮上していないようである。

子どもとのかかわり（生活面）

子育てにかかる時間も長いこの時期は、「子どもと一緒に出かける」(78.3%)、「子どもと一緒に遊ぶ」(24.8%)、「子どもに一日のできごとを聞く」(70.7%)などが全体でもっとも高い比率になっており、母子のコミュニケーションやかかわりの多さを示している。しかしその一方で、「子どもを感情的にしかってしまう」(30.6%)も全体でもっとも高く、密接な関係でありながら子どもがまだ小さいために、うまく子どもとかわれていない面も示されている。また、小学校低学年の段階では「親子で意見が違ふとき、親の意見を優先させている」(67.5%)、「子どもがすることを親が決めたり、手伝ったりすることがある」(71.2%)などにあらわれているように、母親が子どもの行動に対して大きな主導権を握っていることがわかる。

子どもとのかかわり（学習面）

子どもの勉強をみる時間も32.7分でもっとも長く、子どもの勉強時間のうち78.6%を母親がみていることがわかる。「子どもが勉強していて分からないところを教えてあげる」(64.9%)、「子どもが解いた問題のマルつけをする」(63.1%)など、他の学年と比較して積極的に子どもの学習に関与しているようすがみられる。

注) 本章で分析している各項目の比率(%)などの詳細は、表7-1-1、図7-1-1～6を参照されたい。

<小学校中学年（小学3年生～小学4年生）>

子どもと過ごす時間が若干の減少をみせ、母子のコミュニケーションも遊びや日々のできごとの会話から、社会のできごとや将来のことを話すなど、変化がみられる。小学校低学年に引き続き、生活面での悩みが多い一方で、そろそろ学習に関する悩みも浮上し始めている。

子育てにかかる時間と楽しさ

「1日のうち、子どもと一緒にいる時間」は387.8分であり、小学校低学年と比較して約20分短くなっている。母親の感じる「子育ての楽しさ」における「とても楽しい」という回答比率は、小学校低学年と比べて微増するものの（18.7%）、全体としては大きく変わらない。

子育ての悩みや気かり

比率が高いものから順に、「犯罪や事故に巻き込まれること」（58.8%）、「整理整頓・片づけ」（58.1%）、「友だちとのかかわり方」（46.7%）、「ほめ方・しかり方」（45.2%）であり、基本的な悩みは変わらない。次いで、「食事のしつけ」（37.6%）、「家庭学習の習慣」（30.7%）となっている。また「勉強の成績」（15.9%）も小学校低学年と比べて5ポイント以上増加し、そろそろ学習面の悩みや気かりも浮上してくる時期である。一方で、生活面における「しつけの仕方」（27.6%）、「食事のしつけ」は5ポイント以上減少しており、しつけの悩みはやや緩和されていく傾向がある。ただし、「お金の使い方」（27.7%）は小学校低学年と比べて5ポイント以上増加している。

子どもとのかかわり（生活面）

子どもと一緒に過ごす時間がやや減少し、「子どもと一緒に出かける」（66.6%）、「子どもに一日のできごとを聞く」（62.7%）も減少する。しかし、その一方で、「子どもと社会のできごとについて話をする」（23.7%）や、「子どもと将来や進路について話をする」（18.0%）は増加している。また、小学校中学年の段階では「親子で意見が違うとき、親の意見を優先させている」（65.3%）、「子どもがすることを親が決めたり、手伝ったりすることがある」（67.7%）など、小学校低学年に引き続き、依然として母親が子どもの行動に対して大きな主導権を握っていることがわかる。

子どもとのかかわり（学習面）

「1日のうち、子どもの勉強をみる時間」は30.8分であった。「勉強のことは口出しせず、子どもにまかせている」が29.1%に上昇していることもあり、「学校の宿題を手伝う」（8.4%）、「子どもが勉強していて分からないところを教えてあげる」（49.2%）、「子どもが解いた問題のマルつけをする」（38.9%）などの直接的なかかわりは減少している。しかし、小学校低学年に引き続き、小学校中学年の段階でも、子どもの勉強時間のうち母親が勉強をみてあげる時間が過半を占めている（57.0%）ことが示された。

<小学校高学年（小学5年生～小学6年生）>

子どもとかかわる時間はさらに減少をみせ、母親が子どもの自立を徐々に認めていく傾向がうかがえる。また母親は、生活面での悩みを抱えながらも、子どもの進学の時期ということもあり、学習面に関して悩みが増えていく時期である。

子育てにかけける時間と楽しさ

「1日のうち、子どもと一緒にいる時間」は369.2分であり、小学校中学年と比較して、約19分短くなっている。「子育ての楽しさ」に関しては、依然として多くの母親が楽しいと感じている（「とても楽しい（19.7%）」＋「まあ楽しい（68.7%）」）。

子育ての悩みや気がかり

比率が高いものから順に、「犯罪や事故に巻き込まれること」（57.9%）、「整理整頓・片づけ」（55.8%）、「友だちとのかかわり方」（41.8%）、「ほめ方・しかり方」（36.7%）であり、これらの項目は小学校低学年から一貫している。「運動機能やからだの成長発達」は、この時期が他の学年段階に比べてもっとも高く（19.0%）、子どもが第二次性徴期を迎えることによる悩みが増加していることが示された。また、小学校中学年と比較して、「子どもの進路」（28.0%）、「子どもの教育費」（25.0%）、「受験準備」（15.7%）が5ポイント以上増加しており、中学受験のことも悩みや気がかりとしてあがってくる。「携帯電話やパソコンの使い方」（20.5%）も増加している。一方、「ほめ方・しかり方」、「食事のしつけ」（29.6%）、「しつけの仕方」（22.3%）が5ポイント以上低下しており、生活面の悩みはさらに減少しているようだ。しかし、この時期から「生

活リズムと朝起きる時間・夜寝る時間」の回答比率が30%を超え始める（30.0%）。「携帯電話やパソコンの使い方」も上昇していることから、メディア使用が生活リズムに影響していると考えられる。

子どもとのかかわり（生活面）

「子どもと一緒に遊ぶ」（14.7%）、「子どもと一緒に出かける」（57.5%）が減る一方で、「子どもと成績や勉強について話をする」（44.5%）や、「子どもと将来や進路について話をする」（29.1%）が増え、母親の子どもの進学に向けての関心の高さがうかがえる。小学校中学年と比較して、落差が大きいのは「子どもがすることを親が決めたり、手伝ったりすることがある」（55.6%）である。徐々に子どもの自立を認めていくようすがうかがわれる。

子どもとのかかわり（学習面）

子どもの勉強をみる時間は24.4分であった。これは子どもの勉強時間のうち32.4%を母親がみていることを示しており、この時期から母親が勉強をみる比率が50%を割り込むことが示された。これは学習内容が難しくなっていくため、母親が教えられなくなるということも考えられるが、同時に子どもが、親がみてあげなくても、勉強をするようになっていくとも考えられる。

<中学1年生>

子どもの自立が進むなかで、子どもの生活面に関する悩みは減少していく傾向にあるが、その一方で、学習面に関する悩みは反対に増加していく傾向にある。子どもが中学校に入学することで、母親の意識は徐々に学習面に向けられるようになっていく。

子育てにかかる時間と楽しさ

「1日のうち、子どもと一緒にいる時間」は319.6分であり、小学校高学年と比較して約50分短くなり大きな差が認められる。これは中学生になり行動範囲が広がったり、部活動を始めて子どもが家にいる時間が減少したりしたためと考えられる。母親の感じる「子育ての楽しさ」で「とても楽しい」という回答比率は小学校高学年と比べて微増する(20.3%)。一方、「あまり楽しくない」という回答比率も10%を超えた(10.3%)。

子育ての悩みや気がり

比率が高いものから順に、「整理整頓・片づけ」(56.1%)、「犯罪や事故に巻き込まれること」(49.4%)、「友だちとのかかわり方」(38.6%)、「家庭学習の習慣」(38.3%)、「学校の宿題や予習・復習」(38.3%)であり、学習に関する悩みが初めて上位に入った。また、小学校高学年と比較して、「携帯電話やパソコンの使い方」(34.4%)、「勉強の成績」(34.8%)、「学校の宿題や予習・復習」、「家庭学習の習慣」が5ポイント以上増加しており、子どもの中学校入学を境に学習面での悩みが増加している。一方、「ほめ方・しかり方」は5ポイント以上低下している。

子どもとのかかわり(生活面)

「子どもと一緒に出かける」(42.1%)、「子どもと友だちや先生について話をする」(57.1%)が減少し、また「子どもが親に対して思いやりのある言葉や態度を示してくれたと感じる」(40.8%)も大きく減少する。子どもとのかかわりは徐々に減り、より子どもの自立を認めるようになるようすがうかがえるなかで、反抗期の影響も徐々にあらわれてくる。

子どもとのかかわり(学習面)

「1日のうち、子どもの勉強をみる時間」は13.3分であった。子どもの勉強時間のうち、母親がみてあげる時間の比率は18.6%に減少しており、学習に関しては親離れが進んでいることがうかがえる。しかし、この時期に「今は勉強することが一番大切だ」(33.9%)、「できるだけいい大学に入れるよう、成績を上げてほしい」(32.8%)が上昇し、「子どもの教育・進学面では世間一般の流れに乗り遅れないようにしている」(59.5%)も7ポイント程度の上昇をみせており、すでに中1生の段階から母親が子どもの進路や高校受験について、心構えをしているようすがうかがえる。

<中学2年生>

翌年の高校受験を控えて、母親の悩みも子どもの学習面に関するものが増えてくる。また、子どもが反抗期であることもあり、子育て時間は変わらないものの、子どもとかわかること自体がやや減少する時期である。そのなかで、子どもの自立を認める傾向も増えてくる。

子育てにける時間と楽しさ

「1日のうち、子どもと一緒にいる時間」は323.9分であり、中1生と比較して、微増しているものの大きな差は認められない。母親の感じる「子育ての楽しさ」で「とても楽しい」という回答比率は中1生と比べて微減する(19.5%)。また「ぜんぜん楽しくない」もこの時期がもっとも高く(1.2%)、子どもが中2生を迎えたあたりで親子の関係が難しくなる家庭もあるように思われる。

子育ての悩みや気がかり

比率が高いものから順に、「整理整頓・片づけ」(56.0%)、「犯罪や事故に巻き込まれること」(49.2%)、「子どもの進路」(47.5%)、「勉強の成績」(42.0%)であり、子どもの進路に関する悩みがすでに中2生の時点で上位にきている。また、中1生と比較して、「子どもの進路」、「勉強の成績」、「受験準備」(31.6%)が5ポイント以上増加しており、翌年の高校受験に向けて、学習面に関する悩みの増加がより顕著になる。

子どもとのかかわり(生活面)

「子どもと友だちや先生について話をする」(49.6%)、「子どもに一日のできごとを

聞く」(44.7%)はさらに減り、「子どもが親に対して思いやりのある言葉や態度を示してくれたと感じる」(36.2%)ももっとも低くなる。この時期がもっとも子どもと話をすることが少なく、反抗期の真ただ中といえよう。そのなかで子どもの自立を認める傾向が徐々に増えていき、「子どもがすることを親が決めたり、手伝ったりすることがある」も50%を切るようになる(46.8%)。「親子で意見が違ふとき、親の意見を優先させている」はまだ過半を割ってはいないものの(52.1%)、中1生の段階より約5ポイント減少している。

子どもとのかかわり(学習面)

「1日のうち、子どもの勉強をみる時間」は9.6分であった。子どもの勉強時間のうち、母親がみてあげる時間の比率は13.4%に減少しており、学習に関してはさらに親離れが進んでいる。「子どもが勉強していて分からないところを教えてあげる」も9.9%にまで減少する。母親の子どもの学習面に対するかかわりは直接的なものから、「学校のテストの点数を確認する」(59.3%)、「勉強しなさい」と声をかける」(36.9%)、「勉強の意義や大切さを伝える」(24.7%)のように間接的なものになっていく。

<中学3年生>

この時期は子どもの高校受験があるため、母親の悩み・関心は学習面が多くなる。子どもとのかかわりも学習面や進路に関するが多くなる。子どもの意見を優先したり、子どもの自己決定を認めるなど、子どもの自立も明確になっていく。

子育てにかかる時間と楽しさ

「1日のうち、子どもと一緒にいる時間」は314.2分であり、全体でもっとも短くなっている。これは親離れが進むと同時に高校受験のための塾に通う子どもが増えており（基礎集計表参照）、家にいる時間が減少するためと考えられる。母親の感じる「子育ての楽しさ」で「とても楽しい」という回答比率はもっとも高い(23.3%)。一方で、「あまり楽しくない」という回答比率ももっとも高く(11.6%)、子どもの進学や進路をめぐる、子育てが楽しいと思う家庭と楽しくないと思う家庭に分かれるようになり、若干の二極化がみられる。

子育ての悩みや気かり

比率が高いものから順に、「整理整頓・片づけ」(52.3%)、「子どもの進路」(50.2%)、「犯罪や事故に巻き込まれること」(49.7%)、「受験準備」(48.6%)であり、受験勉強が上位に躍り出る。また、中2生と比較しても、「受験準備」は17ポイント増加しており、この時期の母親の大きな悩みになっていることがわかる。一方、「家庭学習の習慣」(33.5%)、「子どもにあった習い事や塾、教材選び」(8.2%)、「学校の宿題や予習・復習」(28.8%)などは5ポイント以上の減少をみせている。

子どもとのかかわり（生活面）

高校受験を控えているということもあってか、「子どもと一緒に出かける」ことは減少しているものの(33.3%)、「子どもと友だちや先生について話をする」ことは微増し(51.2%)、「子どもと成績や勉強について話をする」(51.7%)、「子どもと将来や進路について話をする」(45.1%)も増加している。子どもが中3生になった段階で「親子で意見が違ふとき、親の意見を優先させている」(47.3%)と「子どもがすることを親が決めたり、手伝ったりすることがある」(42.4%)の両者が50%を切り、子どもの自立が明確になっていく。

子どもとのかかわり（学習面）

「1日のうち、子どもの勉強をみる時間」は9.2分であり、子どもの勉強時間のうち、母親がみてあげる時間の比率は8.7%にまで減少している。ここから、学習はほぼ、親から離れて自分で行うようになるようすがうかがえる。この時期はやはり高校受験を控えているため、「今は勉強することが一番大切だ」(45.9%)が全学年段階のうちもっとも高くなる。「そんなに勉強しなくても、なんとか進学できるだろう」(1.9%)は全学年段階のうちもっとも低く、母親のシビアな目線がうかがえる。

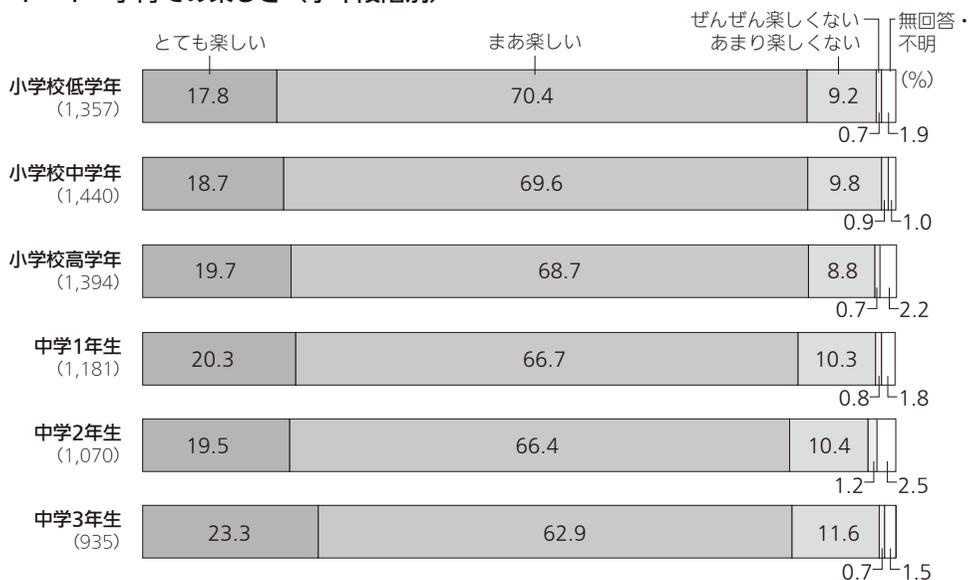
表7-1-1 母親の子どもと一緒にいる時間、子どもの勉強をみる時間、および子どもの勉強時間の平均（学年段階別）

| | 小学校 低学年 (1,357) | 小学校 中学年 (1,440) | 小学校 高学年 (1,394) | 中学 1年生 (1,181) | 中学 2年生 (1,070) | 中学 3年生 (935) |
|-------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|----------------------|----------------------|--------------------|
| 1日のうち、 子どもと一緒にいる平均時間 | 407.9 | 387.8 | 369.2 | 319.6 | 323.9 | 314.2 |
| 1日のうち、 子どもの勉強をみる平均時間 | 32.7 | 30.8 | 24.4 | 13.3 | 9.6 | 9.2 |
| 子どもの平均勉強時間 | 41.6 | 54.0 | 75.2 | 71.4 | 71.9 | 105.7 |

注1) 子どもと一緒にいる時間の平均は、「ほとんどない」を0分、「1時間」を60分、「それ以上」を600分のように置き換えて、無回答・不明を除いて算出した。子どもの勉強をみる時間の平均は、「ほとんどない」を0分、「15分」を15分、「それ以上」を210分のように置き換えて、無回答・不明を除いて算出した。子どもの勉強時間の平均は、「ほとんどしない」を0分、「およそ30分」を30分、「3時間30分」を210分、「それ以上」を240分のように置き換えて、無回答・不明を除いて算出した。

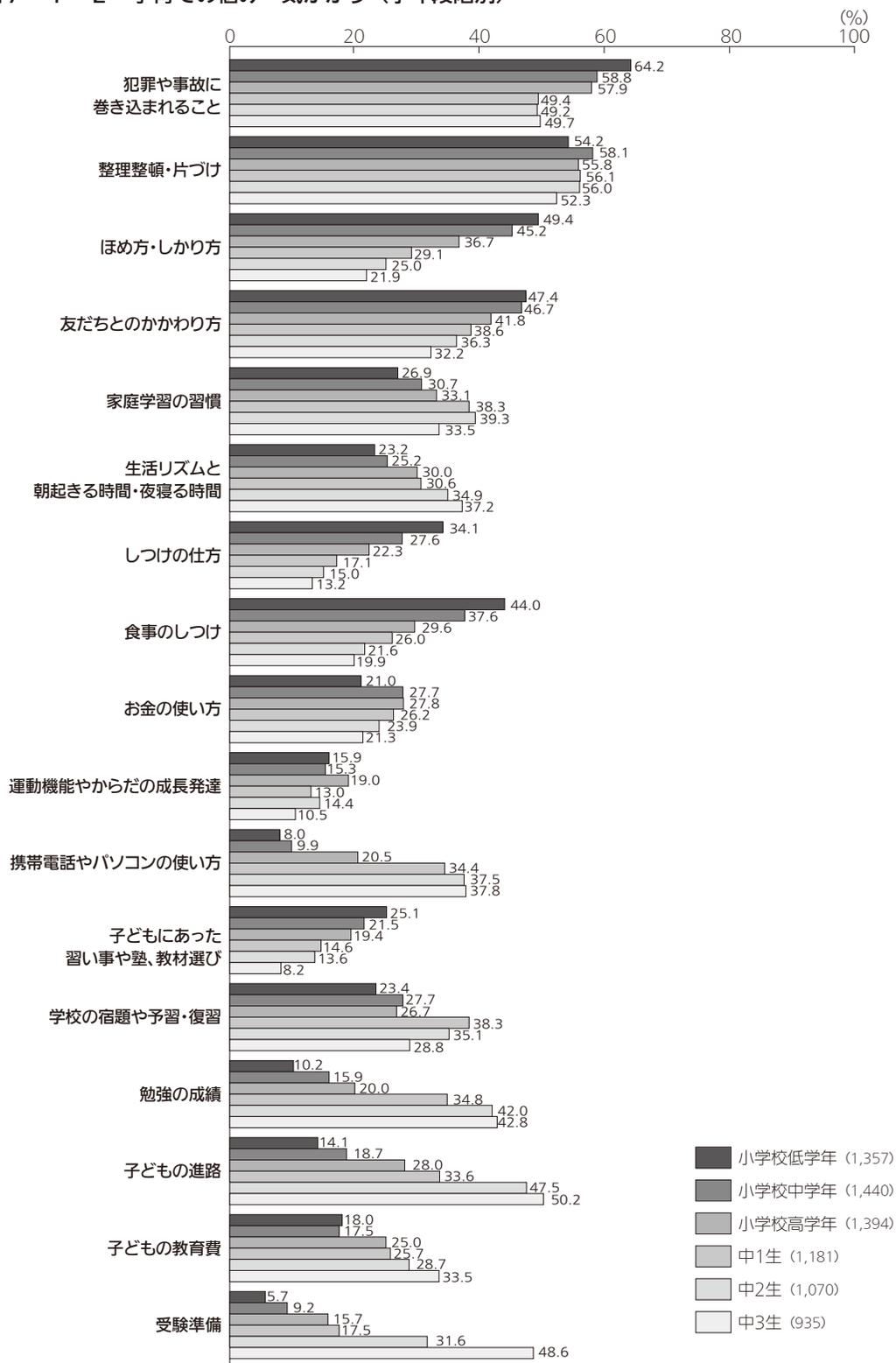
注2) ()内はサンプル数。

図7-1-1 子育ての楽しさ（学年段階別）



注) ()内はサンプル数。

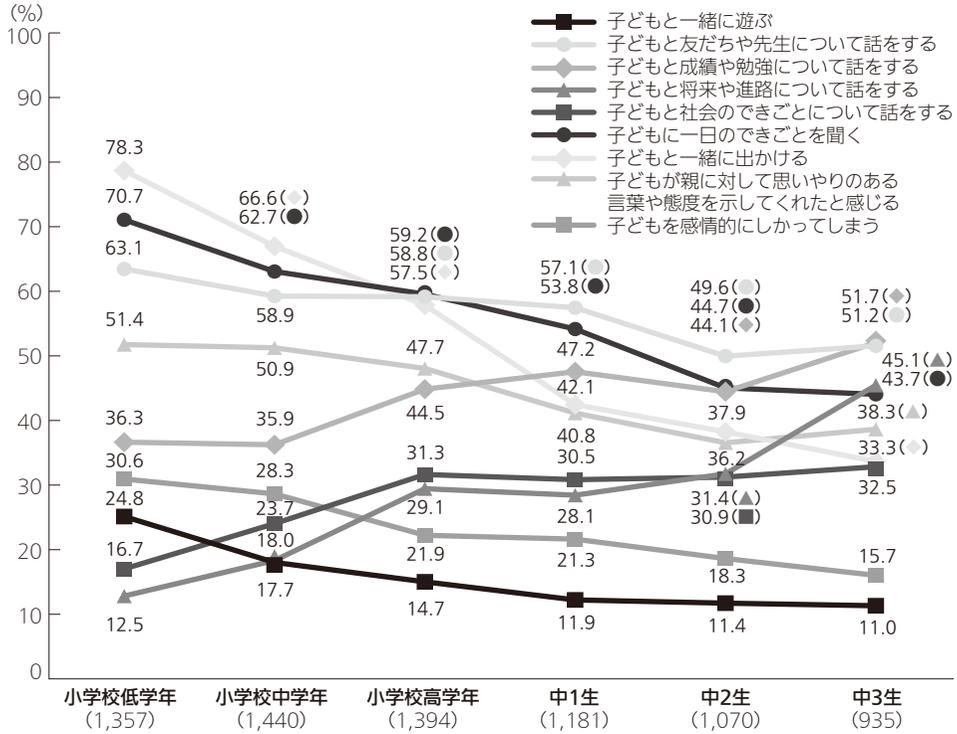
図7-1-2 子育ての悩み・気がり(学年代階別)



注1) 複数回答。38項目中17項目を图示した。

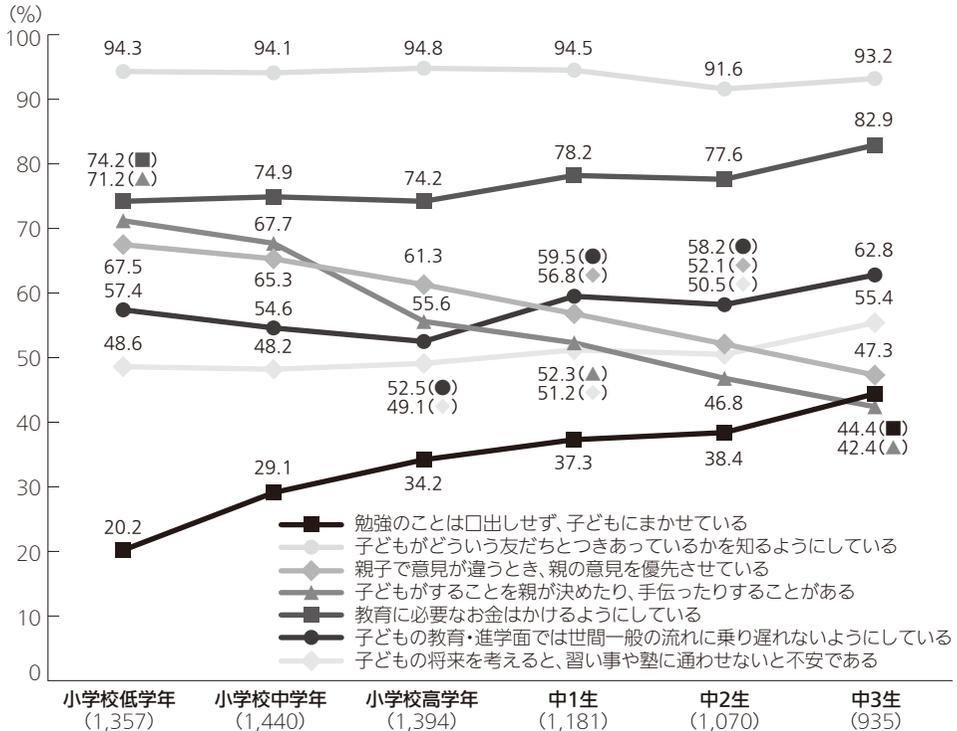
注2) ()内はサンプル数。

図7-1-3 子育ての場面（学年段階別）



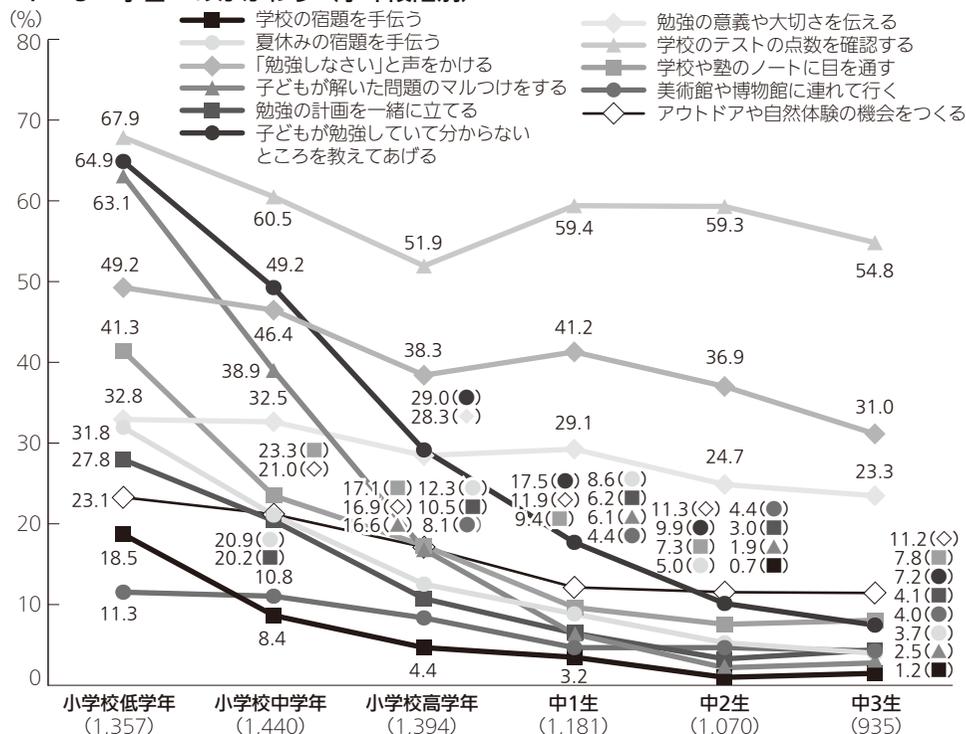
注1) 「よくある」の%。
 注2) 17項目中9項目を图示した。
 注3) ()内はサンプル数。

図7-1-4 家庭の教育方針（学年段階別）



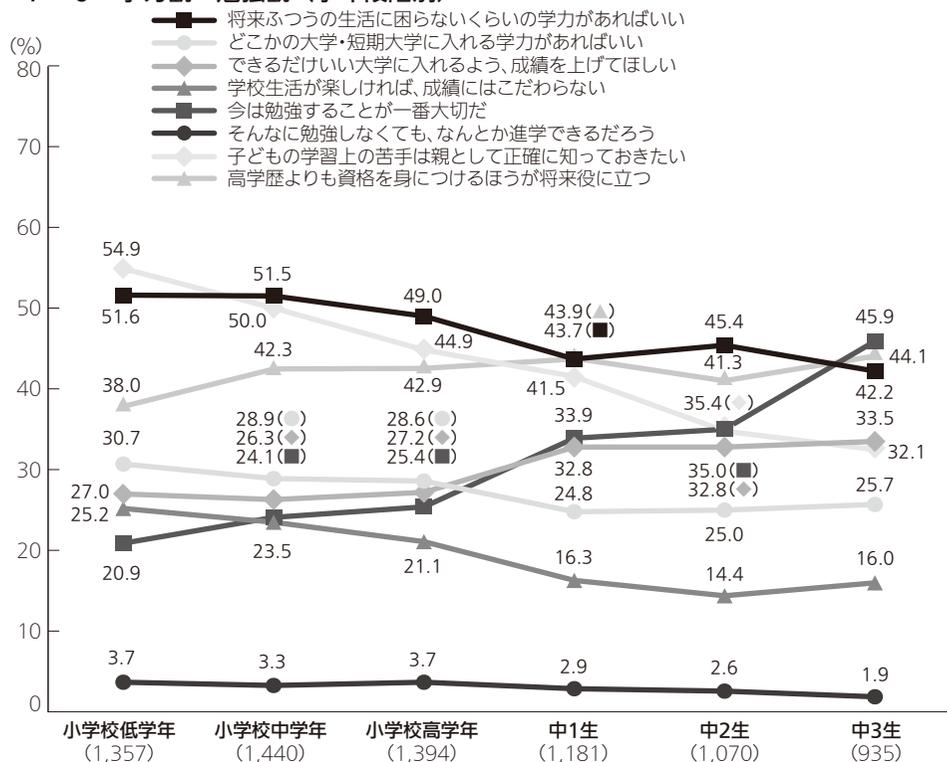
注1) 「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。
 注2) 12項目中7項目を图示した。
 注3) ()内はサンプル数。

図7-1-5 学習へのかかわり（学年段階別）



注1) 「よくある」の%。
注2) () 内はサンプル数。

図7-1-6 学力観・勉強観（学年段階別）



注1) 複数回答。
注2) 10項目中8項目を図示した。
注3) () 内はサンプル数。